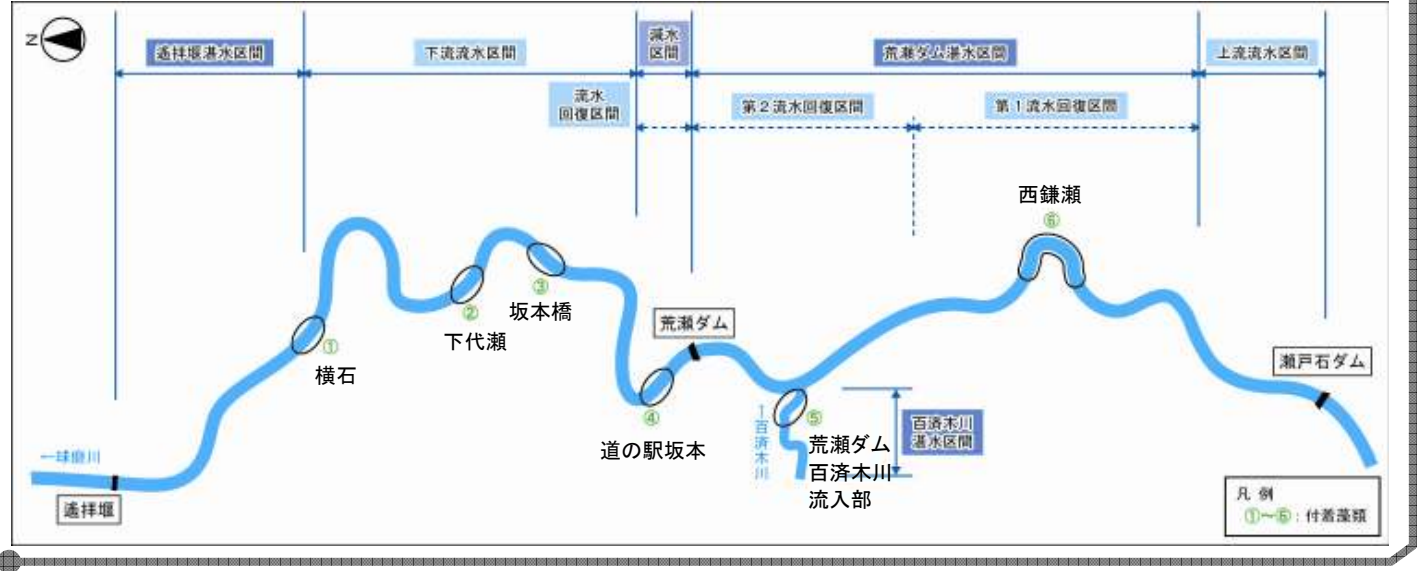


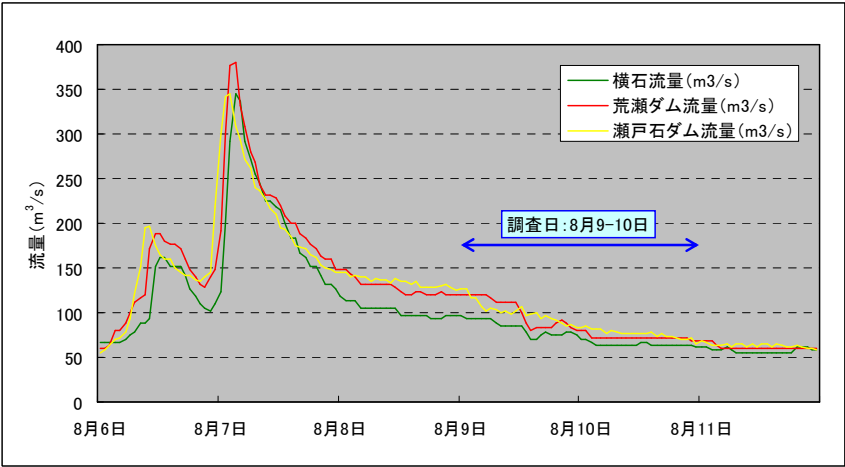
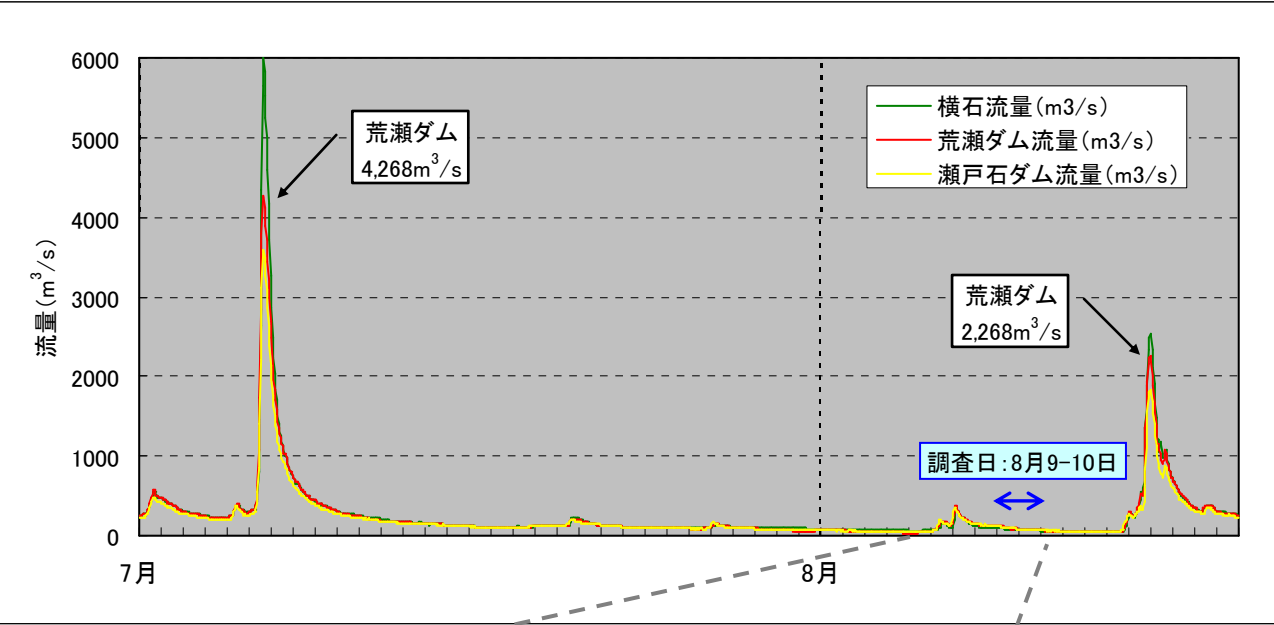
(5) 植物

項 目	調査の実施状況	調査の中間結果（概要）
付着藻類	【計画】 春季、夏季に6地点で計画	・強熱減量は22～67%で、特に百済木川流入部で高かった。 ・クロフィルaは31～81mg/m²で、坂本橋と百済木川流入部で高かったが、フェオフィチンも高い値を示した。
	【実績】 夏季は8月に6地点で実施済み	
	【今後】 春季は次年度に実施予定	
植生、植物相	【計画】 春季、夏季、秋季に河川敷のある全区間で計画	・湛水状態から流水状態への変化区間①（荒瀬ダム百済木川流入部）：ゲート開放による水位低下で新たに露出した陸域には在来のメヒシバーエノコログサ群落(5014)が優占しているが、コセンダングサ群落(5013。要注意外来生物)、オオイヌタデーオオクサキビ群落(5010)やセイヨウカラシナ群落(5034)といった外来生物の侵入も見られる。 ・湛水状態から流水状態への変化区間②（西鎌瀬）：ゲート開放による水位低下で新たに露出した陸域では未だ植物が定着せず自然裸地が多いが、ごく小区域でヒメムカシヨモギーオオアレチノギク群落(5015。要注意外来生物)の外来生物の侵入が見られる。
	【実績】 夏季は7月に、秋季は10月に実施済み	
	【今後】 春季は次年度に実施予定	

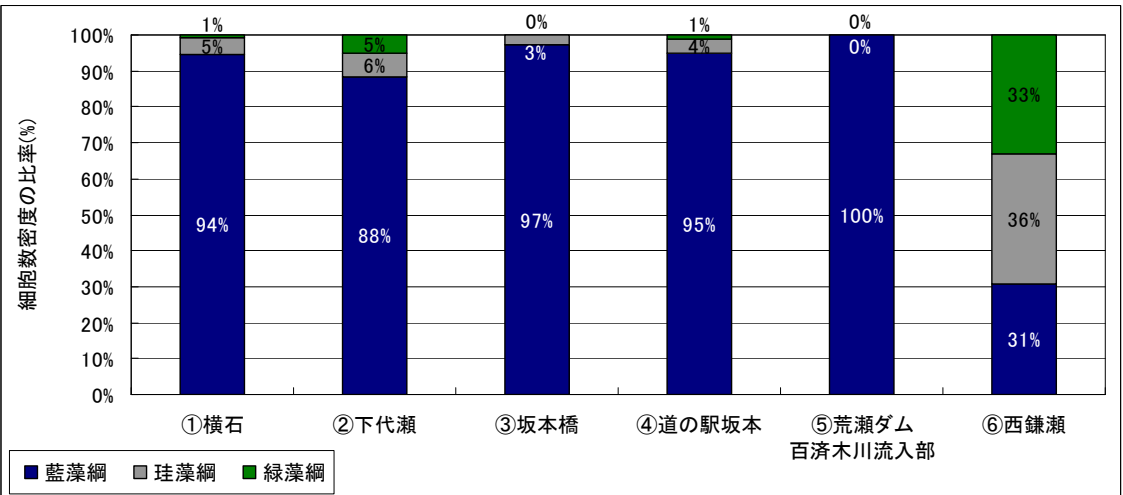
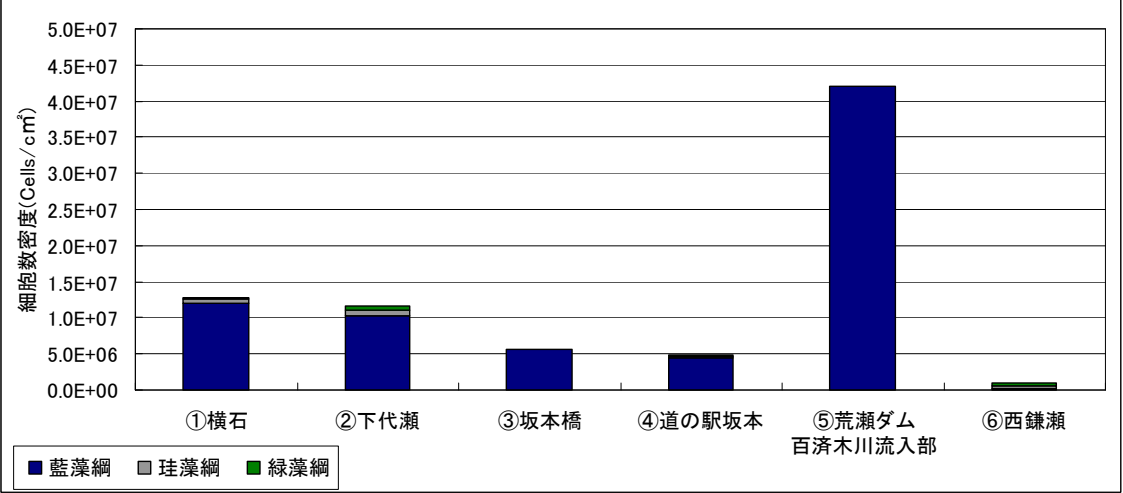
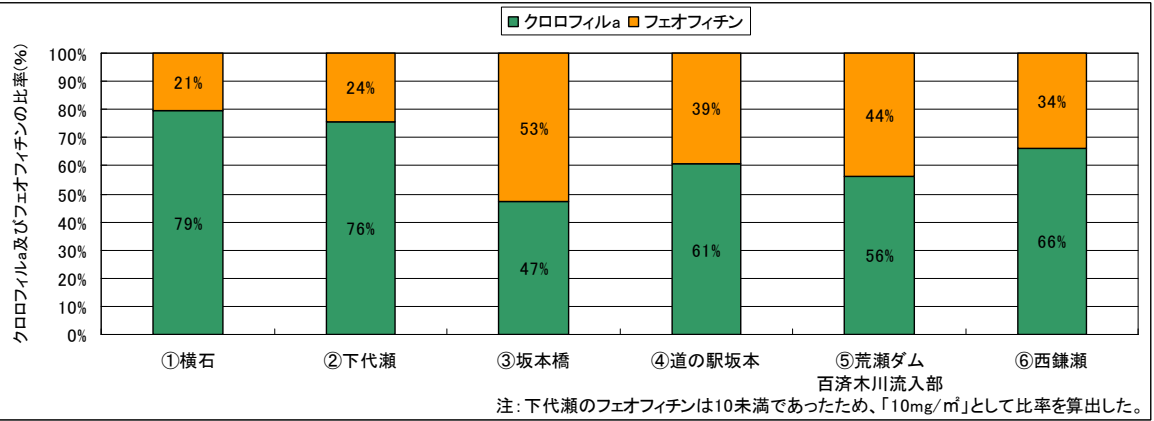
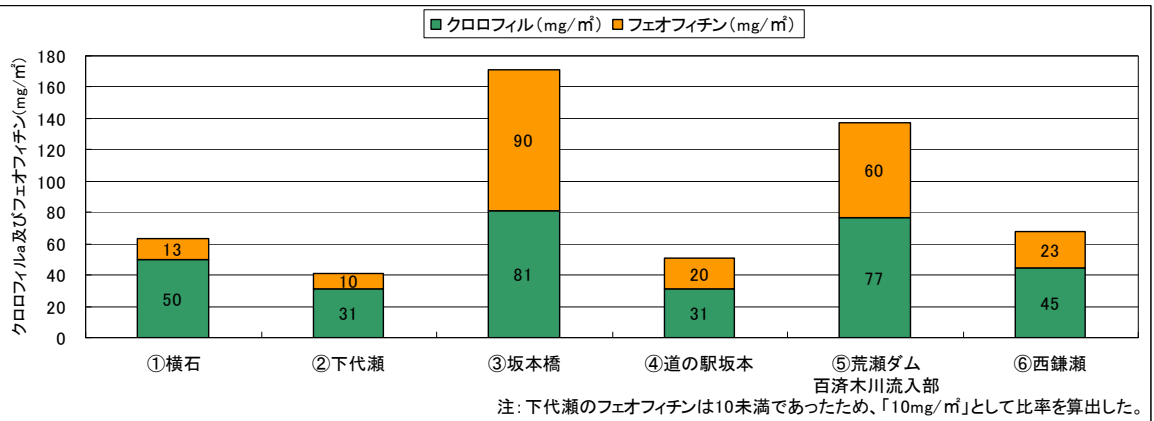
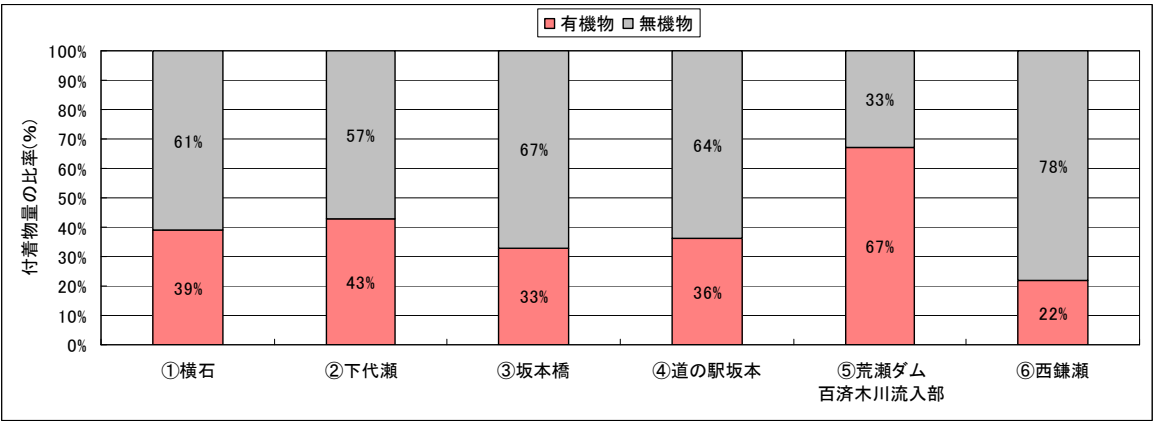
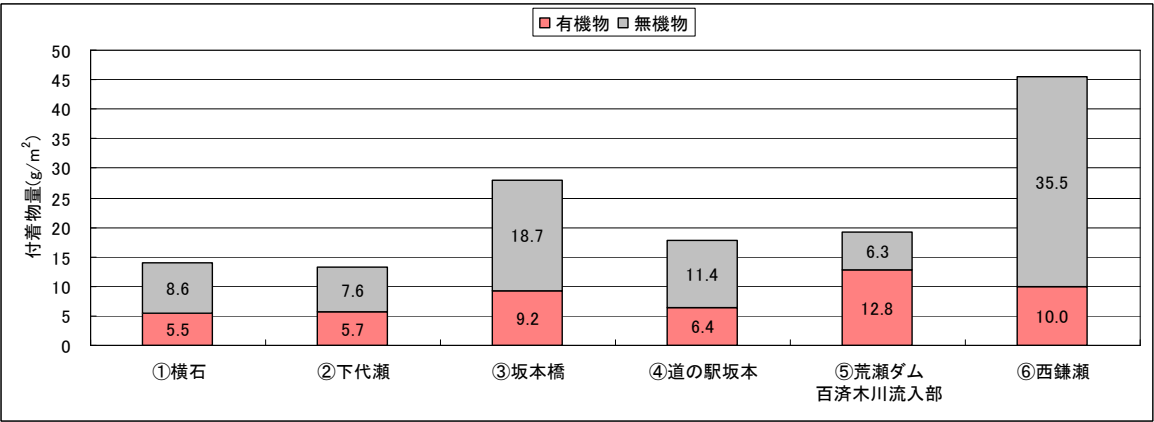
調査地点



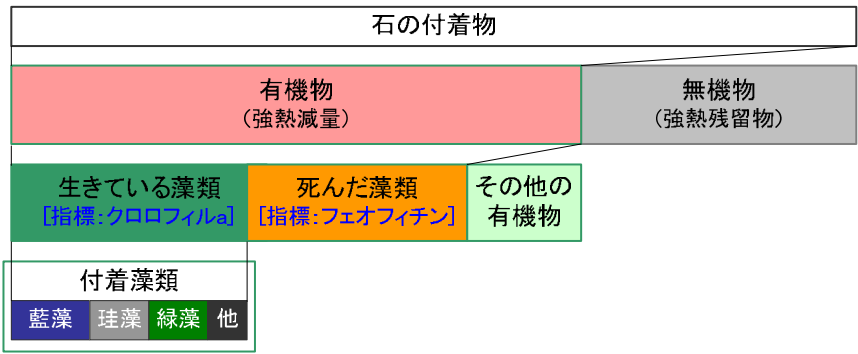
付着藻類の中間結果（概要）



注1：瀬戸石ダムの流量は速報値（出典：電源開発南九州電力所提供資料）
注2：横石の流量は速報値（出典：国土交通省八代河川国道事務所提供資料）
注3：雨量は神瀬観測所の速報値（出典：国土交通省水文水質データベース）



【参考：石の付着物】



	水生動物の餌としての特徴	調査項目
有機物	アユ等の藻食魚や刈取食の底生動物等の餌を一部に含む	強熱減量
無機物	シルトや粘土等から構成され、餌とならない	強熱残留物量
生きている藻類	栄養価の高い餌の量を示す	クロロフィル a
死んだ藻類	栄養価の低い餌の量を示す	フェオフィチン
その他の有機物	主な餌とはならない	—
付着藻類	餌となる付着藻類の種別の内訳を示す	種別の細胞数密度